



早く仕事を終えるために、最初の段取りに時間をかけるんです。



好きな作業という倉庫クレーン。活き活きしています。



CP車の運転も馴れたもの。「前に横持ち車に乗ってはとんでもなく難しかったです」



だんじり祭りで地元の仲間たちと。チームワークや上下関係はここから学んだそうです。

上司から見た「現場力」  
荻原さんの「現場力」  
ライオンマネージャー 奥村章男さん  
「30年前にほぼ絶滅した貴重なタイプ」  
さわやかで真面目で面倒見が良く、イイ男(笑)。今の時代でこんな男気のある人材には滅多に出会えません。ゆくゆくはみんなに慕われて周りを引っ張っていくリーダーになってくれると思っています。自分の分身となる後輩をどんどん育ててほしいですね。



JFE物流を支えるのは最前線で活躍する現場の皆さん。彼らの「現場力!」を紹介します!

関西物流(株) 業務部 堺物流課

# 倉庫に保管する製品の配置を美しくコーディネート 荻原真介さん



製品を検取しながらも次の作業の段取りを練る。

堺物流センターにおいて現場の作業を一手に引き受ける関西物流。安全と品質に配慮した入出庫を行うためには、ただ製品を出し入れすれば良いというわけではありません。入社12年目、男気溢れる倉庫内のコーディネーターにお聞きしました。

—どんな仕事をしていますか?—  
いろいろありますが、一番多いのは「受け」といって、水揚げされた製品を倉庫のどこに置るか指示を出す作業です。この仕事の役目は、倉庫内の状況を見て一番効率の良い積み方を考えること。製品の配置によって、出庫のときにかかる手間も大幅に変わってくるからです。例えば鋼板を重ねて置くにしても、なかなか出庫がかららないものが上のほうにあると、その下にあるものを出すのに一度ばかり手間が発生してしまうんです。  
—状況判断が重要なんですね。—  
そうです。慣れないうちは幅が広いものと

狭いものを混ぜて積んでしまったりして、一回置いたものをまた持ち上げて別の場所に...ということもよくありました。そうなるも当然時間も余計にかかってしまいます。自分の信条は「仕事は早く終わって、とっとと帰る」なので、とにかくどうすれば早く作業を終えられるかを常に考えていますね。案をしようと思えばこそ、先に時間をかけて倉庫内の状況を把握しておくこと、水揚げや出庫予定の情報を事前に仕入れておくことが大事なんです。  
—情報を仕入れるのはどうやって?—  
デリバリーの人たちとの打ち合わせです。ずっと班長がやっていたんですが、最近やっと任せられるようになって、そこのやりとりがいかに重要かがわかりました。製品の置き場に困ったときには、「こっちを早く出庫したい」と

と言っ、現場の要望を聞いてもらうこともあります。  
—CP車やクレーンも運転されていますが、それぞれいつ頃乗るようになったんですか?—  
入社して1年間は、ひたすら玉掛けや製品の検取をやり  
ました。覚えることが多くて忙しかったからか、その頃の記憶はほとんどありません。倉庫クレーンの資格を取って乗るようになったのは2年目のとき。CP車は4年ぐらい前からです。望めば新しい資格に挑戦させてくれたのはありがたいですね。  
—一番好きな作業は何ですか?—  
たまにしか乗りませんが、好きな作業は倉庫クレーンです。操縦者の技術によって作業のスピードや正確さが変わる。自分の腕が試されるのが面白いんです。ずっと乗っていたんですが、そうもいきません(笑)。じつは受けの作業にも似たような面白さがあったので、自分が思い描いた段取りがうまく行って、早く仕事が完了したときには、「自分の腕で仕事を回した」という気分になります。お伝えしたように、いろいろ考えなければいけない仕事で、ただ自分もかなり細かい性格なので、その辺がぴったり合っているのかもしれない。

—リフレッシュ方法は?—  
職場のみんなで飲みに行くことですね。予定を決めることはあまりなくて、仕事終わりに着替えながら「今日行くか?」というのが多いです。唯、恒例になっているのは、ボーナス

が入ったら食へに行く焼肉です(笑)。—これからの目標を教えてください。—  
自分が盛り上げて、職場を明るく元気にしたいです。あと、技能をどんどん後輩に伝えたい。地元の「だんじり祭り」では、教わったことを次の世代に伝えるのが伝統なので、小さい頃からその意識が染み付いているんです。仕事も一緒だと思っています。偉そうに聞かせるかもしれませんが、後輩を自分の身に育てていきたいですね。